■採録記事【令和３年１２月１０日（金）／読売中高生新聞・一面】

読売中高生新聞 248×376.5

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて偏見や差別のない社会へ

ハンセン病とは?

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがありました。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることなく完治します。

明るい未来を作るためにハンセン病問題を考える

11月13日に、「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」が開催されました。ハンセン病患者と元患者、そしてその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に残っています。その解消のためには、若い世代が正しい知識を身に付けて、次世代に継承していくことが必要です。ハンセン病問題に関わってこられた方の声を聴き、今こそ人権について考えてみませんか?

基調講演 過ちを繰り返さない決意を

群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会 副会長
吉幸 かおる さん

1999年11月、私は友人に誘われて草津へ紅葉狩りに行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽泉園を訪れました。そこで私にハンセン病の歴史について教えてくれたのが、後に「ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長」となる谺(こだま)雄二さんでした。

谺さんとお母さんは、ハンセン病患者であることを理由に、家族の元から無理やり離され、療養所に入所させられました。そこでは労働を強制され、結婚しても子を授かり、育てることは許されませんでした。患者がそれらの方針に反対すると、ただちに懲罰施設である「重監房」に入れられたそうです。

私は自分が住む国で起きた人権問題について知らずに64年間生きてきたことを恥ずかしく思い、谺さんたちが取り組んでいた裁判の手伝いや、ハンセン病についての学びを始めました。

2001年5月11日、谺さんたちは裁判に勝訴しました。それは大変喜ばしいことですが、まだ完全解決への長い道のりの一歩にすぎませんでした。また、栗生楽泉園の原告の方々はほとんど亡くなってしまいましたが、過ちを繰り返さないためには、この問題を未来へと伝えていく必要があります。

谺さんたちの想いを受け継ぎ、平和と人権が尊重される世界の実現を共に目指しましょう。

基調講演 歴史から学び、語り継ぐ

重監房資料館 部長
黒尾 和久 さん

私は、重監房資料館で働いています。「重監房」とは、国立療養所の栗生楽泉園にあった、ハンセン病患者を収監した懲罰施設の通称です。園にとって都合の悪い思想を持つ人や扱いにくい人は、裁判を受ける権利もなく、ここに送られてしまいました。冬になると-20度近くになる場所で、十分な治療を受けられず、1938年から1947年の間に収監された延べ93人のうち23人が亡くなったと言われています。

重監房資料館は、ハンセン病問題を伝えるために、かつて重監房があった場所の近くに設置されました。いまだに不明な点が多い重監房の運用の実態や、収監患者のライフヒストリーなどを示す、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査研究の成果を公表することで、命の大切さを伝え、偏見・差別の解消を目指しています。ぜひ、当資料館にお越しいただき、当時の環境を想像してみてください。

ハンセン病問題と重なる現代の問題として、新型コロナウイルス感染症に感染した人やその家族が、誤った知識や偏見によって差別やプライバシー侵害を受けていることが挙げられます。偏見・差別を受けている人は、常に周囲の視線におびえながら生活しているのです。そんな人の存在に気づき、思いやりの気持ちを持ってください。人権問題は、私たちの身近なところで今も起きているのです。

パネルディスカッション

人権尊重は相手を知ることから

● 交流が思いやりにつながる …… 群馬県中之条町立六合中学校 3年 清水 蒼空さん

私たちの学校は、栗生楽泉園との交流を代々続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は、入所者の方と直接お会いしたときに、ハンセン病問題が一気に身近なものになったように感じました。この経験から、積極的に相手のことを理解しようとすれば、偏見・差別は減らせるのではないかと思っています。これからも、ハンセン病問題と人権の尊重について、考え続けていきたいです。

● 共生社会の実現に向けて …… 群馬大学社会情報学部 4年 狩野 大樹さん

私は大学の授業で東京の多磨全生園を訪れたことをきっかけに、ハンセン病問題に興味を持ち、現在はハンセン病家族国家賠償請求訴訟や未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会では、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、いまだに多くの人が様々な偏見・差別によって苦しんでいます。想像力を働かせ、学び、発信し続ければ、お互いの間にある壁を乗り越えて共に生きていくことができると思います。

トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優、写真集「13(サーティーン) ハンセン病療養所からの言葉」著者
石井 正則さん

俳優の石井正則さんは、13か所の国立ハンセン病療養所をめぐり、撮影した光景と入所者による詩を写真集として出版しました。そのきっかけは、香川県にある国立療養所の大島青松園で撮影されたドキュメンタリーを見て衝撃を受けたことでした。「療養所の中で人々が感じたことを後世に伝えなければ」と、強い使命感を持って撮影にあたったそうです。

フリーアナウンサー、元日本テレビアナウンサー・記者
藪本 雅子さん

かつてそこで生きた人たちが直面した厳しい現実がひしひしと伝わる写真だけでなく、療養所の中で咲く花々など、前向きな気持ちを感じさせる作品にも心を動かされたという藪本さん。しかし、ハンセン病元患者の家族が名乗り出て補償金を受け取ることすら難しいほど、ハンセン病問題を含む偏見・差別は今でも社会に根強く残っています。その現状をどう思うか、石井さんに聞きました。

石井さんは、自身が新型コロナウイルス感染症に感染したと公表した際、誹謗中傷をほとんど受けなかった経験から「社会や人間は差別をしないように成長していると感じた」と語りました。また、ハンセン病について学んだことで、自分自身が偏見・差別の加害者になってしまう可能性にも気付いたといいます。若い世代の皆さんにも、療養所に足を運び、改めて人権について考えてみてほしい、と石井さんは語りました。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイトYouTubeの[人権チャンネル]でご覧いただけます。
https://www.youtube.com/jinkenchannel

重監房資料館
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533
http://sjpm.hansen-dis.jp/

国立療養所栗生楽泉園
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町大字草津乙647番地
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/kuriu/

知っていますか?「子どもの人権110番」

いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

子どもの人権110番(通話料無料) 0120-007-110
みんなの人権110番 0570-003-110
女性の人権ホットライン 0570-070-810

「インターネット人権相談」

インターネットでも人権相談を受け付けています。

子どもの人権SOS-eメール

パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 https://www.jinken.go.jp インターネット人権相談 検索

外国人のための人権相談:https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html
- 法務省人権擁護局ホームページ https://www.moj.go.jp/JINKEN
- YouTube 法務省チャンネル https://www.youtube.com/MOJchannel
- YouTube 人権チャンネル https://www.youtube.com/jinkenchannel
- 人権ライブラリー https://www.jinken-library.jp

人KENあゆみちゃん
人権イメージキャラクター 人KENまもる君

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

人権啓発動画

ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。

映像はこちらから
【https://youtu.be/gPH5b_CDwto】

■採録記事【令和３年１２月９日（木）／読売 KODOMO 新聞・一面】

読売KODOMO新聞 248×376.5

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて偏見や差別のない社会へ

明るい未来を作るために ハンセン病問題を考える

11月13日に、「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」が開催されたよ。ハンセン病患者・元患者や家族への偏見・差別を解消するためには、正しい知識を身に付けることが大切。この機会に、みんなで考えてみよう！

パネルディスカッション 人権尊重は相手を知ることから

群馬県中之条町立六合中学校 3年 **清水 蒼空**さん

交流が思いやりにつながる

私たちの学校は、栗生楽泉園との交流を代々続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は、入所者の方と直接お会いしてから、ハンセン病問題をより身近に感じるようになりました。この経験から、相手のことを積極的に理解しようとすれば、偏見・差別は減ると思っています。これからも、ハンセン病問題と人権の尊重について考え続けます。

群馬大学社会情報学部 4年 **狩野 大樹**さん

みんなと共に生きるために

私は大学でハンセン病問題について知り、現在はハンセン病家族国家賠償請求訴訟や未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会では、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、いまだに多くの人が様々な偏見・差別によって苦しんでいます。想像力を働かせ、学び、発信し続ければ、お互いの間にある壁を乗り越えて共に生きていくことができると思います。

トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優、写真家13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉」著者 **石井 正則**さん

俳優の石井正則さんは、13か所の国立ハンセン病療養所をめぐり、撮影した光景と入所者による詩を写真集として出版しました。そのきっかけは、香川県にある国立療養所で撮影されたドキュメンタリーを見て衝撃を受けたことでした。「療養所の中で人々が感じたことを後世に伝えなければ」と、強い使命感を持って撮影にあたったそうです。

フリーアナウンサー、元日本テレビアナウンサー・記者 **戴本 雅子**さん

そこで生きた人たちが直面した厳しい現実が伝わる写真だけでなく、療養所の中で咲く花々など、前向きな気持ちを感じさせる作品にも心を動かされたという戴本さん。しかし、ハンセン病元患者の家族が名乗り出て補償金を受け取ることすら難しいほど、ハンセン病問題を含む偏見・差別は今でも社会に根強く残っています。その現状をどう思うか、石井さんに聞きました。

石井さんは、自身が新型コロナウイルス感染症に感染したと公表した際、誹謗中傷をほとんど受けなかった経験から「社会や人間は差別をしないように成長していると感じた」と語りました。また、ハンセン病について学んだことで、自分自身が偏見・差別の加害者になってしまう可能性にも気付いたといいます。若い世代の皆さんにも、療養所に足を運び、改めて人権について考えてみてほしい、と石井さんは語りました。

ハンセン病とは？

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあったんだ。でも、らい菌の感染力はとても弱く、発病することはほとんどないよ。もし発病しても、今は早期発見と適切な治療で後遺症が残ることなく完治するんだ。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイトYouTubeの［人権チャンネル］でご覧いただけます。

https://www.youtube.com/jinkenchannel

基調講演 過ちを繰り返さないで

群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会 副会長 **吉幸 かおる**さん

1999年11月、私は友人に誘われて草津へ紅葉狩りに行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽泉園を訪れました。そこには、元患者の谷雄二さんがいて、私にハンセン病の歴史を教えてくれました。

谷さんとお母さんは、ハンセン病患者であることを理由に、療養所に無理やり入所させられました。そこでは労働を強制され、結婚しても子を授かり、育てることは許されませんでした。方針に反対する患者は、罰を与えるための施設「重監房」に入れられたそうです。

私は、自分が住む国で起きた人権問題について知らずにいたことを恥ずかしく思い、谷さんたちが取り組む裁判の手伝いや、ハンセン病についての学びを始めました。

谷さんたちは2001年、ハンセン病患者の隔離を認めた「らい予防法」が憲法に反すると国を訴えた裁判に勝訴しましたが、それは解決への入り口に過ぎませんでした。悲劇を繰り返さないためには、この問題を未来へと伝えていかなくてはなりません。谷さんたちの想いを受け継ぎ、平和と人権が尊重される世界を目指しましょう。

基調講演 歴史から学び、伝えよう

重監房資料館 部長 **黒尾 和久**さん

私は、重監房資料館で働いています。「重監房」とは、一部のハンセン病患者を罰するための施設の通称です。冬には20度近くになる場所で、十分な治療を受けられず、1938年から1947年の間に収監された延べ93人のうち23人が亡くなったと言われています。

重監房資料館は、かつて重監房があった場所の近くに設置されました。今でも不明な点が多い重監房の使われ方や、患者たちの人生の物語などを示す、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査や研究の成果を発表することで、命の大切さを伝え、偏見・差別の解消を目指しています。ぜひ、現地で当時の環境を想像してみてください。

ハンセン病問題と重なる現代の問題として、新型コロナウイルス感染症に感染した人やその家族が、誤った知識や偏見によって差別やプライバシー侵害を受けていることが挙げられます。そういった偏見・差別に苦しむ人たちの存在に気付き、思いやりの気持ちを持ってください。人権問題は、私たちの身近なところで今も起きているのです。

重監房資料館
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533
http://sjpm.hansen-dis.jp/

国立療養所 栗生楽泉園
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町大字草津乙647
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/kuriu/

人権イメージキャラクター 人KENまもる君

知っていますか？
「子どもの人権110番」
いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してね。

子どもの人権110番（通話料無料）
0120-007-110

みんなの人権110番
0570-003-110

女性の人権ホットライン
0570-070-810

人KENおゆみちゃん

インターネットでも人権相談を受け付けています。
「インターネット人権相談受付窓口」

子どもの人権SOS-Eメール

パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 https://www.jinken.go.jp

インターネット人権相談 検索

外国人のための人権相談：
https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html

- 法務省人権擁護局ホームページ https://www.moj.go.jp/JINKEN
- YouTube 法務省チャンネル https://www.youtube.com/MOJchannel
- YouTube 人権チャンネル https://www.youtube.com/jinkenchannel
- 人権ライブラリー https://www.jinken-library.jp

人権啓発動画

ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。

映像はこちらから▶【https://youtu.be/gPH5b_CDwto】

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

■採録記事【令和３年１２月９日（木）／毎日小学生新聞・一面】

毎日小学生新聞 249×391

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて偏見や差別のない社会へ

明るい未来を作るために ハンセン病問題を考える

11月13日に、「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」が開催されたよ。ハンセン病患者・元患者や家族への偏見・差別を解消するためには、正しい知識を身に付けることが大切。この機会に、みんなで考えてみよう！

パネルディスカッション 人権尊重は相手を知ることから

群馬県中之条町立六合中学校 3年 **清水 蒼空**さん

交流が思いやりにつながる

私たちの学校は、栗生楽泉園との交流を代々続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は、入所者の方と直接お会いしてから、ハンセン病問題をより身近に感じるようになりました。この経験から、相手のことを積極的に理解しようとすれば、偏見・差別は減ると思っています。これからも、ハンセン病問題と人権の尊重について考え続けます。

みんなと共に生きるために

群馬大学社会情報学部 4年 **狩野 大樹**さん

私は大学でハンセン病問題について知り、現在はハンセン病家族国家賠償請求訴訟や未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会では、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、いまだに多くの人が様々な偏見・差別によって苦しんでいます。想像力を働かせ、学び、発信し続ければ、お互いの間にある壁を乗り越えて共に生きていくことができると思います。

トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優、写真集「13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉」著者 **石井 正則**さん

俳優の石井正則さんは、13か所の国立ハンセン病療養所をめぐり、撮影した光景と入所者による詩を写真集として出版しました。そのきっかけは、香川県にある国立療養所で撮影されたドキュメンタリーを見て衝撃を受けたことでした。「療養所の中で人々が感じたことを後世に伝えなければ」と、強い使命感を持って撮影にあたったそうです。

フリーアナウンサー、元日本テレビアナウンサー・記者 **藪本 雅子**さん

そこで生きた人たちが直面した厳しい現実が伝わる写真だけでなく、療養所の中で咲く花々など、前向きな気持ちを感じさせる作品にも心を動かされたという藪本さん。しかし、ハンセン病元患者の家族が名乗り出て補償金を受け取ることすら難しいほど、ハンセン病問題を含む偏見・差別は今でも社会に根強く残っています。その現状をどう思うか、石井さんに聞きました。

石井さんは、自身が新型コロナウイルス感染症に感染したと公表した際、誹謗中傷をほとんど受けなかった経験から「社会や人間は差別をしないように成長していると感じた」と語りました。また、ハンセン病について学んだことで、自分自身が偏見・差別の加害者になってしまう可能性にも気付いたといいます。若い世代の皆さんにも、療養所に足を運び、改めて人権について考えてみてほしいと石井さんは語りました。

基調講演 過ちを繰り返さないで

群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会 副会長 **吉幸 かおる**さん

1999年11月、私は友人に誘われて草津へ紅葉狩りに行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽泉園を訪れました。そこには、元患者の谷雄二さんがいて、私にハンセン病の歴史を教えてくれました。

谷さんとお母さんは、ハンセン病患者であることを理由に、療養所に無理やり入所させられました。そこでは労働を強制され、結婚しても子を授かり、育てることは許されませんでした。方針に反対する患者は、罰を与えるための施設「重監房」に入れられそうです。

私は、自分が住む国で起きた人権問題について知らずにいたことを恥ずかしく思い、谷さんたちが取り組む裁判の手伝いや、ハンセン病についての学びを始めました。

谷さんたちは2001年、ハンセン病患者の隔離を認めた「らい予防法」が憲法に反すると国を訴えた裁判に勝訴しましたが、それは解決への入り口に過ぎませんでした。悲劇を繰り返さないためには、この問題を未来へと伝えていかなくてはなりません。谷さんたちの想いを受け継ぎ、平和と人権が尊重される世界を目指しましょう。

基調講演 歴史から学び、伝えよう

重監房資料館 部長 **黒尾 和久**さん

私は、重監房資料館で働いています。

「重監房」とは、一部のハンセン病患者を罰するための施設の通称です。冬には20度近くになる場所で、十分な治療を受けられず、1938年から1947年の間に収監された延べ93人のうち23人が亡くなったと言われています。

重監房資料館は、かつて重監房があった場所の近くに設置されました。今でも不明な点が多い重監房の使われ方や、患者たちの人生の物語などを示す、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査や研究の成果を発表することで、命の大切さを伝え、偏見・差別の解消を目指しています。ぜひ、現地で当時の環境を想像してみてください。

ハンセン病問題と重なる現代の問題として、新型コロナウイルス感染症に感染した人やその家族が、誤った知識や偏見によって差別やプライバシー侵害を受けていることが挙げられます。そういった偏見・差別に苦しむ人たちの存在に気付き、思いやりの気持ちを持ってください。人権問題は、私たちの身近なところで今も起きているのです。

ハンセン病とは？

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあったんだ。でも、らい菌の感染力はとても弱く、発病することはほとんどないよ。もし発病しても、今は早期発見と適切な治療で後遺症が残ることなく完治するんだ。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイトYouTubeの［人権チャンネル］でご覧いただけます。

https://www.youtube.com/jinkenchannel

重監房資料館 〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 http://sjpm.hansen-dis.jp/

国立療養所 栗生楽泉園 〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津乙647 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/kuriu/

人権イメージキャラクター 人KENまもる君

知っていますか？

「子どもの人権110番」

いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してね。

子どもの人権110番（通話料無料） 0120-007-110

みんなの人権110番 0570-003-110

女性の人権ホットライン 0570-070-810

人KENあゆみちゃん

インターネットでも人権相談を受け付けています。

「インターネット人権相談受付窓口」

子どもの人権SOS-eメール

パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 https://www.jinken.go.jp

インターネット人権相談 検索

外国人のための人権相談：https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html

- 法務省人権擁護局ホームページ https://www.moj.go.jp/JINKEN
- YouTube 法務省チャンネル https://www.youtube.com/MOJchannel
- YouTube 人権チャンネル https://www.youtube.com/jinkenchannel
- 人権ライブラリー https://www.jinken-library.jp

人権啓発動画

ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。

映像はこちらから ▶【https://youtu.be/gPH5b_CDwto】

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

■採録記事【令和３年１２月９日（木）／朝日小学生新聞・５段】

朝日小学生新聞5段 （170×382）

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて偏見や差別のない社会へ

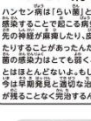
明るい未来を作るために ハンセン病問題を考える

11月13日に「ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」」が開催されたよ。ハンセン病への偏見・差別を解消するためには、正しい知識を身に付けることが大切。この機会にみんなで考えてみよう！

ハンセン病とは？

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の末先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあったんだ。でも、らい菌の感染力はとても弱く、発病することはほとんどないよ。もし発病しても、今は早期発見と適切な治療で後遺症が残ることなく完治するんだ。

基調講演 過ちを繰り返さないで

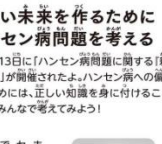


群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会 副会長 **吉幸 かおる**さん

1999年11月、私は友人に誘われて草津へ紅葉狩りに行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽泉園を訪れてハンセン病の歴史について学びました。かつて、ハンセン病患者は、無理やり療養所に入所させられました。そこでは労働を強制され、結婚しても子を授かり、育てることは許されませんでした。方針に反対する患者は、罰を与えるための施設「重監房」に入れられたそうです。

2001年、患者・元患者の皆さんは国を訴えた裁判に勝訴し、解決への第一歩を踏み出しました。しかし、悲劇を繰り返さないためには、この問題を未来へ伝えていく必要があります。ハンセン病元患者の方々の思いを胸に、平和と人権が尊重される世界を目指しましょう。

基調講演 歴史から学び、伝えよう



NPO法人ハンセン病人権センター 理事長 **黒尾 和久**さん

私は重監房資料館で働いています。"重監房"とは、一部のハンセン病患者を罰するための施設です。そこでは十分な治療を受けられず、1938年から1947年の間に収容された延べ93人のうち23人が亡くなったと言われています。

重監房資料館はそれがあった場所の近くに建てられ、重監房の使われ方や、患者たちの人生の物語を示す資料を収集・保存し、調査や研究の成果を発表することで、命の大切さを伝えています。

ハンセン病問題と重なる現代の問題として、新型コロナウイルスに感染した人たちが、偏見・差別を受けていることが挙げられます。そのように、苦しむ人たちへの思いやりの気持ちを持ってください。人権問題は、私たちの周囲でも今も起きているのです。

パネルディスカッション 人権尊重は相手を知ることから

群馬中之条町立六合中学校 3年 **清水 蒼空**さん

●交流が思いやりにつながる

私たちの学校は、栗生楽泉園との交流を続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は入所者の方と直接お会いしてから、ハンセン病問題をより身近に感じるようになりました。この経験から、積極的に交流して相手を理解することが大切だと思っています。

群馬大学 社会情報学部 4年 **狩野 大樹**さん

●みんなと共に生きるために

私はハンセン病家族国家賠償請求訴訟や未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会では、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、多くの人が様々な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせ、学び、発信し続ければ、壁を乗り越えて共に生きていくことができると思います。

トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優/写真家/13(サーティーン)/ハンセン病療養所からの言葉」著者 **石井 正則**さん

俳優の石井正則さんは、自ら撮影した13か所の国立ハンセン病療養所の光景を写真集として出版しました。作品から療養所の生活の厳しさを読み取った数本の雑誌記事を読んだ石井さんは「もっと多くの人に、人権問題について考えてほしい」と改めて感じたそうです。そこで、現代社会に残る偏見・差別について、石井さんの考えを聞きました。

石井さんは、ハンセン病の歴史に触れたことで、自分が偏見・差別の加害者になる可能性を強く意識できるようになったといいます。そして、療養所を訪れて、ハンセン病問題や身近な人権問題について考えてみてください、と若い世代へのメッセージを伝えました。

アリーナナウンサー、元日本テレビアナウンサー・女優 **鈴本 雅子**さん

知っていますか？ 子どもの人権110番

いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

子どもの人権110番（通話料無料） 0120-007-110

インターネットでも人権相談を受け付けています。 インターネット人権相談 検索

子どもの人権SOS-eメール

法務省人権擁護局 全国人権擁護委員連合会